

● 新年のご挨拶 (2022-1-1)



一昨年10月に菅政権が「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言するとともに、昨年4月には、2030年度の新たな温室効果ガス排出削減目標として、2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるとの新たな方針を示し、経済産業省が「第6次エネルギー基本計画」を策定しました。その中で電源構成など多くの疑問点もありますが、昨今では全固体電池、水素・アンモニア製造技術、新型太陽電池開発等の情報が新聞、テレビ、Web等で多く取り上げられはじめ、再生可能エネルギーが経済を牽引するという考えが高まり、まさに再生可能エネルギー元年といえる年でした。

一方、太陽光発電設置開発における造成地、系統連系問題など再生可能エネルギー開発における負の要素も実際の問題として浮き上がり始めてきており、今後これらの課題や問題を専門家だけではなく多くの方々が認識し、論議を重ねて考え10年後、30年後の世界を描いていくことが重要と思います。

新型コロナ感染拡大第6波到来も予測される中、当協会の活動も色々制限されることと思いますが、霊山プロジェクト、宮代町プロジェクトなどを通しての地域活動、Webによる情報発信など、微力ながら地球温暖化抑制への一助となるよう活動を進めてまいりますので、よろしくお願い致します。 代表理事 保坂英夫

● 「環境」の基本的な考え方: 持続可能な循環型社会をめざして の紹介 (2022-1-16)

東北大学で、生物化学工学専攻教授を勤められました西野徳三名誉教授が、「環境」の基本的な考え方: 持続可能な循環型社会をめざしてが2022年1月14日、東北大学出版会から出版されました。

著者は、「自然と調和・共生する、循環型の持続可能な社会を形成する必要性が叫ばれています。そのために、人類、社会、そして私たちは何をしたら良いのでしょうか。古来より日本人は水や森の循環系を護り、ものを大切に、土壌を重視した再生産の考え方で海や山の共生系を保ってきました。その先人の培ってきた知恵や心をこれからも持ち続けたいものです」と呼びかけておられます。

第1章:宇宙における地球、第2章:環境から見える資源、第3章:土から得たものを土に返す、第4章:生ごみを含め、有機性廃棄物の処理、堆肥化、第5章:自然と太陽エネルギーのめぐみ、第6章:健康や病気は遺伝子支配か環境支配か、第7章:日本の自然調和型文化の継承を、環境に関する広範囲の研究・活動を支える原点に立つ考え方が述べられております。

発行所:東北大学出版会 定価, 3,300 円(税込)

是非ご一読ください。後日、REPA 図書館に所蔵する予定です。

●霊山プロジェクト 2022 年「ほまじのわ」が出来ました(2022-1-16)

今年も霊山プロジェクトの皆様が真心を込めた「ほまじのわ」が出来ました。4年目で内容もさらに充実して参りました。是非ご賞味いただければと思います。

霊山プロジェクト代表大沼氏からのメッセージ

向春の候、皆さまにはご清祥のこととお慶び申し上げます。こちらは昨年末から雪が降り、野山は一面銀世界になっております。あの震災から11年。昨年秋には「霊山プロジェクト10年の歩み」を発売していただきありがとうございます。皆さまからこの10年間に戴いた沢山のご厚誼を改めて思われ、感謝の思いでいっぱいです。私たちもその思いを胸に刻み、心新たに霊山プロジェクトの活動を続けてまいります。今年も下記のような「ほまじのわ」詰合せセットを用意いたしましたので、是非ご賞味戴ければと思います。

セット内容 凍みもち こんにゃく 干し柿 大豆 味噌
ナツハゼジャム いちじくジャム 甘露煮 甘辛糍ピーマン
ピーナツみそ 大根のつくだ煮 お楽しみスイーツ

●REPA オンライン勉強会【第三回】 (2022-1-21)

今回は、当協会正会員 山本恵一様より「再生可能エネルギー導入に際した現在の電力システムの問題点」と題してコスト、送電網、技術的課題について丁寧な判りやすい解説を頂き、参会者で有益な議論をしました。

日時:2022年1月21日(金) 17:00~18:30

内容

- (1)再生可能エネルギー導入に際した現在の電力システムの問題点
- (2)再エネと既存電源の発電コスト
- (3)再生可能エネルギー導入に必要な直流送配電
- (4)PV、WP の欠点(変動)を補うには
- (5)再生可能エネルギーに適した電力システムとは
- (6)課題